

実施主体	津市教育委員会
------	---------

平成19年度国際教育推進プラン報告書

1 実施主体

三重県 津市教育委員会

2 実践学校名

中核校

三重大学教育学部附属小学校、三重大学教育学部附属中学校、
津市立安東小学校、津市立栗真小学校

協力校

津市立北立誠小学校、津市立西が丘小学校

3 連携先NPO法人等名

国立大学法人三重大学、特定非営利活動法人パンゲア、
特定非営利活動法人みえIT市民会議、株式会社イーラボ・エクスペリエンス
(津市総務部情報政策課、津市市民交流課)

4 平成19年度の実践活動

(1) 取組内容

①平成19年度第1回国際教育推進地域連絡協議会の開催

平成19年5月31日(木)、三重大学のメディアホールで「平成19年度第1回国際教育推進地域連絡協議会」を開催し、平成18年度の実績報告、平成19年度事業計画、平成20年度の実績等について協議した。

②平成19年度第2回国際教育推進地域連絡協議会の開催

平成20年2月8日(金)、三重大学国際交流センター会議室で「平成19年度第2回国際教育推進地域連絡協議会」を開催し、本年度の実績報告及びその成果と課題、来年度の実績等について協議した。

③国際教育推進プランのホームページ等の開設

津市教育委員会、三重大学のホームページで、国際教育推進プランの事業目的、具体的な活動内容等を、また、NPO法人パンゲアのホームページで三重大学でのパンゲア活動の様子を紹介している。さらに、国際教育推進地域連絡協議会に関する各機関の委員のメーリングリストとパンゲア活動のファシリテータのメーリングリストを開設している。

④パンゲア活動の開催

三重大学生、株式会社イーラボ・エクスペリエンス社員、津市教育委員会事務局の外国語指導助手(ALT)、パンゲアスタッフがファシリテータとなり、5

月26日(土)、6月23日(土)、9月8日(土)、10月13日(土)、11月10日(土)、12月8日(土)、1月12日(土)、2月9日(土)にパンゲア活動を行った。中核校・協力校から約20名の子どもが参加し、韓国、ウイーン、ケニア、東京、京都の拠点の子どもと交流するための作品づくりやパンゲアネットを活用したメールの送信等を行った。10月13日(土)のパンゲア活動では、京都の拠点の子どもたちとウェブカメラを使い、「こえつな」(互いに大きい声を出して声の綱引きをする活動)や「おとびこ」(楽器を使って遊ぶ活動)等を行った。

また、3月8日(土)のパンゲア活動では、三重大学メディアホールでIT技術を活用したオーストリアのウイーンとの同期アクティビティを開催する。

⑤パンゲアファシリテータ講習会

5月25日(金)に三重大学メディアホールでパンゲア活動のファシリテータへの講習会を、また、8月20日(月)には、テクニカルスタッフへの講習会を開催した。

⑥中核校・協力校における国際交流

三重大学教育学部附属小学校の取組

三重大学教育学部附属小学校の5年生児童が、総合的な学習の時間で日本の文化等を紹介する作品をパソコンを使って作成している。今後、ニュージーランドのラッセルストリート小学校へその作品を送付し、交流活動を行う。(別紙参照)

津市立西が丘小学校の取組

三重大学教育学部教授の協力の下、津市立西が丘小学校の4年生児童が、「Windowsムービーメーカー」を活用した2分の1成人式記念のデジタルストーリーを制作し、アメリカ合衆国ノースカロライナ州のフォレストヒルズ小学校に自分たちの作品を送付するとともに、津市教育委員会主催の「イングリッシュエキスポ」で交流作品の発表を行った。2月5日、相手校から返事が届いた。また、今回の交流活動でお世話になった三重大学生(当時アメリカ留学中)から、現地の様子も聞くことができた。

津市立北立誠小学校の取組

本年度から北立誠小学校の4・5・6年生の児童が、ニュージーランドのラッセルストリート小学校と児童の作成した作品交換を通して、交流活動を行っている。また、4年生はアメリカ合衆国、オクラホマ州のジョンロス小学校とも交流しており、今年度、それぞれの学校と2回ずつ作品交換をした。北立誠小学校の児童は、ブックマークを作成したり、日本の食事の紹介を、朝食、昼食、夕食のグループに分けて行い、絵を描いたり、写真を貼り付けたり、パンフレットの切り張りをしたりしたもの日本語で説明を加えて送った。5・6年生児童は、自己紹介を書いた手紙やクリスマスカードをニュージーランドのラッセルストリート小学校の児童に送った。相手校からは、北立誠小学校の児童一人ひとりにパソコンを使って写真を取り込んだ手紙が送られてきた。また、

5・6年生は、総合的な学習の時間に三重大学生に入ってもらい、それぞれの手紙を読んでもらったり、互いに感想を述べあったりした。

津市立安東小学校の取組

安東小学校の児童は、アメリカ合衆国、フロリダ州 マイアミ・カントリー・デイ・スクールの児童と手紙（1対1のペンパル）やSide by Side（等身大の自画像に好きな物、将来の夢を書く）の交換、図工作品や俳句作品の交換、ビデオメールやクリスマスカードの交換を行った。また、共通物語の読み合い（Sadako and Thousand Paper Cranes, The Chocolate Touch, JOHN REYNOLDS GARDNER STONE FOX）やインターネットを使ったアイディタロッド犬ぞりレース（Iditarod Trail Sled Dog Race）を互いに楽しんだ。

⑦三重大学アカデミックフェア2008年での発表

アカデミックフェアは、「三重大学アカデミックプラザ」が年に一度開催する知の祭典で、年齢、国籍、性別、学歴、職業などの壁を超えて交流を行っている。そのプラザ（広場）で、大学生、教職員、一般参加者等に国際教育推進プランに係るパンゲア活動、スクイークで作った作品、デジタルストーリーテリングの作品についての紹介をした。

⑧国際環境教育

株式会社イーラボ・エクスペリエンスの協力の下、教職員対象にスクイークのプログラムからフィールドサーバーへのアクセス方法やフィールドサーバーから得られた気温、湿度、日射量などの環境データを活用したワークショップを開催する。また、三重大学で、フィールドサーバー+スクイーク+ジオラマ（たとえば、ある温度以上になると、スクイークで作成したカタツムリが突然消えたり、ひっくり返ったりする）で子どもたちが海外の学校と環境を考えるための教材の考案と開発を行っている。

津市立安東小学校の取組

本年度、津市立安東小学校5年生児童が、総合的な学習の時間で国際環境問題について学習を積み重ね、11月に開催した「安東フェスティバル」では、国際環境問題をテーマにした創作英語劇を発表し、児童のみならず保護者や地域住民、他校の教職員にも環境を守る大切さについて呼びかけた。また、2月20日、5年生児童対象に「地球・地域の環境問題と私たちの役割 できることからはじめよう」と題して、三重大学の教員による講演会を開催した。

津市立西が丘小学校の取組

本年度、地域在住の三重県地球温暖化防止活動推進センターの推進委員を招いて、国際環境教育を始めた。パプアニューギニアと交流している推進委員の協力を得て、パプアニューギニアの子どもたちが地球温暖化防止など環境について考えたポスターを届けてもらい、それを受けて、西が丘小学校の4年生児童が、三重県総合環境研究センター理事長の支援を得て、パプアニューギニアの子どもたちに届けるポスター作りを行っている。

⑨情報教育

津市立西が丘小学校では、8月29日（水）、校内研修会で全教職員が、三重大学教育学部教授等の指導を受け、スクイークを使って、お絵かき、アニメーション、プログラミングの仕方など、基本的な操作の実技について学んだ。

また、中核校・協力校の教職員が、三重大学教育学部教授等の指導を受け、12月22日（土）、三重大学教育学部附属小学校で、スクイーク学習先進校や三重大学生の取組やスクイークの基本操作について学び、スクイークを使った作品づくりを行った。

（2）取組内容の成果

- ① 月1回、中核校・協力校の子どもが国際交流活動（パンゲア活動）に参加できる場を三重大学メディアホールに設けることができた。その結果、多文化共生の時代に必要な相手の立場から物事を考えることができ、また、何を伝えたいかという気持ちをもった子どもが育っている。たとえば、ケニアが大変な状況になっており、パンゲアのナイロビの拠点で活動している子どもたちを元気づけたいと手紙を書いた。そのことが、きっかけで、ケニアのニュースに関心をもつようになり、自分のこととして見るようになってきている。また、韓国の子どもたちとの同期アクティビティを通して、アクティビティ前後で子どもたちの韓国への感じ方が変わった。アンケートの結果、実施前に韓国のことを大好きと回答したのは、2名であったが、実施後は3名に、実施前に好きと回答したのは5名であったが、実施後は12名に、実施前に普通と回答したのは11名であったが、実施後は3名となった。
- ② このパンゲア活動は、子ども一人ひとりの活動を保証しており、また、大学生や外国語指導助手(ALT)などのファシリテータが子どもの良きお兄さん、お姉さんとなっており、子どもの意欲を引き出している。子どもたちが、パンゲア活動に参加することで、大学生やファシリテータとの関わりから社会性を身につけたり、きちんと人の前に立って発表できるようになったり、自分の存在感を自然な形でだせるようになってきたりしてきている。
- ③ ファシリテータが互いに意見交換できるサイトを設けたことで、ファシリテータ間の交流が深まり、ファシリテータのネットワークづくりが進んだ。
- ④ 各学校での国際交流活動を通して、相手校の子どもたちから届いた手紙を読んだり、作品を見たりして、子どもたちが海外の子どもたちを身近に感じるとともに、自分の学校や郷土の良さ等を再認識し、それを相手に伝える力を身につけてきている。
- ⑤ 国際環境教育の取組を進めることで、「地球温暖化はだんだんと進行しているから、私たちが地球を守っていかなければならない。そして、自分でやることをやらなければならない」と考える子どもが育っている。
- ⑥ スクイークとフィールドサーバーを組み合わせた国際、環境、情報教育についてのプログラムの考案、開発が進められている。

(3) 来年度の課題

- ① 月1回のパンゲア活動が、新しいコミュニティになってきており、新たなカリキュラムを作り出していく必要がある。また、このパンゲア活動が地域や大学に根づくように、ファシリテータ及び技術リーダーや技術スタッフの育成を継続して行う。
- ② 本年度の国際教育推進地域連絡協議会の構成機関の連携強化を図りながら、地域の国際教育ネットワークの充実・発展に努める。
- ③ パンゲア活動の取組内容等を中核校・協力校以外の学校にも情報提供するとともに、市内の各小中学校の国際理解教育に活用できる教材、指導案及びカリキュラムの開発を行う。
- ④ 中核校・協力校で取り組んでいる国際交流活動や国際環境教育の内容を他校にも広められるよう取り組む。
- ⑤ フィールドサーバーから得られた環境データを活用し、スクイークで表現する方法を用いた国際環境教育と情報教育を融合させた授業づくりを研究する。

(別紙)

三重大学教育学部附属小学校における国際交流教育への取組

本年度は、5年生の総合的な学習の時間で、日本の文化を海外の小学生に紹介する実践を行った。

実践したのは5年生A組で男子20名、女子17名、計37名の学級である。班は6名または7名の6班で構成されている。実践は総合的な学習の時間で行い、3月に交流相手校に送付することを目標に3学期の全期間を使って実施する予定である。

< 授業の実際 >

第1時〔オリエンテーション〕

子どもたちに、ニュージーランドのラッセルストリート小学校との交流を行うことになったこと、同国の位置や同小学校がある町の位置などの確認を行った。

そして、家庭用の紙芝居を見せ、このようなものをコンピュータで閲覧できるようにすることを説明した。班単位で日本の文化を紙芝居のようにA4の画用紙にまとめ、それをスキャナーで取り込んだり、直接コンピュータソフト絵を描いたりして、コンピュータの画面を自動的に切り替えていく旨説明した。

そのあと、右図資料のようなワークシートを渡し、まず、個人で日本文化として何を伝えたいのか、伝えるためのラフスケッチを考えさせた。

総合的な学習の時間ワークシート1 (2008.1.20) 5年生A組 津市 附属小学校

「日本を外国の子どもたちに紹介しよう」

Q ニュージーランドのラッセルストリート小学校の児童は、日本文化を知りたいと希望しています。あなたも、総合的な学習の時間で学んだ日本文化を伝えるための準備です。授業で学んだ日本文化を、写真やイラスト、絵などで表現し、それをコンピュータで表示できるように準備してください。まず、下絵を描いてラフスケッチを完成させよう。

注意

1. 画用紙の大きさや書き方の目安は次の通りです。
2. 下絵の描きかたは次の通りです。写真の貼付けは不可です。
3. 下に、30文字以内の日本語を書いてください。1行につき10文字以内で書くようにしてください。

1	2	3
4	5	6

※1. 2枚目以降のページは横書きでラフスケッチを描いてください。

第2～4時〔ラフスケッチ、下書きの作成〕

それぞれの子どもにワークシート1のラフスケッチを完成させた。その後、班で、どの子どものアイデアが実際につくるものとしてもっとも優れているかを話し合わせ、その子どものアイデアにしたがって、下絵をつくることにした。上の欄には絵（写真の貼り付けは不可）、下の欄に台詞を書かせた。

指導者が、下絵の完成を確認後、A4の白紙に本描きをするよう指導した。残念ながら直接コンピュータソフトを使って描くグループはなかった。



第5時～第12時〔本描き〕

子どもたちは下絵にしたがって、現在、A4の紙に本描きを実施している。

< 今後の予定 >

2月21日現在、本描きは、ほぼ完成しており、26日（火）には中間発表として、各班ができた作品を直接見せながらストーリーを読む予定である。その後、他の班からもらった意見に従って修正を加え、スキャナーで取り込んで、子どもたちの声でストーリーを録音する予定である。

交流相手校の子どもたちへの配慮として、本学の英語科教授やALTの協力を得てストーリーを英訳し、画面の下にテロップを流すといった方法で完成させる予定である。3月中にはCDにデータを焼いて、津市教育委員会を通じラッセルストリート小学校に送付する予定である。

